

ACROSS 速報版

2021年12月9日 第101号

英国と中国、異なる2国から学ぶこと



講師：田尻 邦夫 氏

2021年度第2回経営学部校友会セミナーは11月13日、立命館大学 OIC 大阪いばらきキャンパスにて、会場と Zoom でのハイブリッドでの開催となりました。講師は、伊藤忠商事常務取締役、デザート社長を経験され、現在も NPO 法人「新社会人養成塾 Booster」理事長、経営塾「25日会」を主宰されるなどご活躍中の田尻邦夫氏。英国や中国でのご滞在の経験から「英国と中国、異なる2国から学ぶこと」をテーマにお話しいただきました。

1. はじめに

現役社会人の時に感じていたのは今の学生諸君は大変優秀だけれど、国のあり方や防衛、文化が意外に知られていない。これらをもっと考えてほしいという思いで「新社会人養成塾」をしてみました。また私が主宰している異業種交流組織「25日会」ではいろんな方に話をさせていただいています。その際、講師には趣旨をご理解いただいて、無料でお話し願っています。

ユダヤ民族を考える人にもお話ししました。この方はテルアビブ大学在学中に認められ外務省に入省され最後はイスラエルの大使を務められましたが、1年間説得してやっと応諾していただき、この12月の例会でお話し願うことになっています。この会には、財務省、自衛隊、政治家、マスコミの人などが参加されており、オフレコで実際の話聞くことができます。



2. 中国を嫌いなままで良いですか？

嫌いな国で中国急上昇

ビジネスの世界にいた立場からお話しさせていただきます。最近中国の話題が盛りあがっています。わかりにくいところもありますが、わかりやすいところがあります。「中国が嫌いですか」というアンケート（こういうアンケートはバイアスがかかっていますが）で、日本人の9割が中国嫌いです。書店には中国嫌いの本が満載です。ところが中国には日本嫌いの本はほ

とんどない、まず皆無だと中国駐在の人間が言っていました。政府の反日ドラマが放送されていますが、ふだんは日本嫌いが多いわけではありません。韓国の反日と中国の反日は違うのではないかと思います。中国人は日本が好きだし、日本に来たがっています。日本に興味があります。中国では日本酒も値段が高いです。ワインより高いのではないのでしょうか。

尖閣問題

でも尖閣諸島をはじめとした領土問題はシリアスです。明治時代は日本も領土問題についてシリアスでした。しかし現代の日本政府は尖閣問題について具体的な手を打って来なかったと思います。中国は長期的に考えます。中国は尖閣について徐々に手を打ち始めています。日本は遅れていました。ようやく日本も自衛隊で相良駐屯地に水陸機動隊をつくり 3 自衛隊が共同して活動をしています。でも日本からは絶対先に手を出しません。日本は現状維持をしたいのです。でも相当機動的になりつつあります。なにかあったときのリスクを中国に分からせる必要があるからです。

ただ、2019年11月24日、日中外相会議が行われました。中国の王毅・中国外相は日本語がうまいのです。このとき「最近日本の漁船がナーバスな海域（釣魚島、日本の尖閣です）近辺に出没しているが、中国政府はこれを見過ごすことができない。断固とした立場をとります」と「抗議」したのです。ところがこれに対して、当時外相の茂木氏は何も言わなかったのです。このとき茂木氏は断固とした態度をとるべきでした。そうしなかったのが尖閣が中国領土だということがある種既成事実になってしまったのです。これはまずかったです。相手が半歩出て来たときに対応しておくべきだったのです。日本は現状維持を望む立場ですが、中国は自国の領土だと主張しているのです。尖閣はいわば「百年戦争」です。

急速に発展した理由

なぜ中国は急速に発展したのでしょうか。私は文革が終わってすぐくらいに中国に行きました。でも街は暗いし、自転車がたくさん走っていて、国民服を着ているという有様でした。そ

れが急速に進歩して今日に至っているのです。中国人は歯が綺麗だった。歯医者に行けないので気をつけていたのではないのでしょうか。

1989年天安門事件のとき、伊藤忠課長時代ですが、あのとき中国は国際社会から見放されました。日本は1990年の天皇訪中など中国に助け船を出しました。国際金融などでも中国をバックアップしました。でも、中国人は日本にメリットあるから来たと思っている節があります。1993年、鄧小平さんが南巡講話を出して市場経済化を進めました。彼はこの政策を出すにあたって、長い戦いを経て出してきたのです。中国は政策をいったん出したらきちっと説明します。中国の政策を見るとよく分かります。何のためにやるのかちゃんと説明しているし、よく分かります。

中国で不動産が問題化していますが、中国では家を持ってないと結婚できません。住宅は必需品です。中国人は古来金儲けが好きです。中国の繁栄の基礎には二つあります。一つは、中央と地方の関係です。地方政府は開発した収益の4割が手元に残ります。地方政府はそのお金で開発を進めます。次々と開発していきます。寧波市開発事例からもそれがわかります。そして次、次と何もないところに町ができます。地方都市の収益の40%くらいが土地の売却益だそうです。開発は地方政府、たとえば寧波市主導です。寧波阪急百貨店もできました。ここでは日本食のフードコートなど超満員です。二つ目は税法です。売却益は20%課税ですが、相続税や固定資産税はありません。5年以上たてば20%課税で済みます。経営者などは、給料よりも配当か売却益で稼いでいます。その税金が安いのです。

「先富論」と「共同富裕」

先富論、この三字で中味がわかる。中国語は便利です。中国に中国という「国家」はない。中国共産党が支配しているところがあるだけです。中国人にとって生活が第一で、生活が苦しくなると、易姓革命がおこります。国民の反乱を中国政府は恐れます。全員に食べさせれば国民はおとなしくしています。満足しているわけです。以前の温家宝首相は清廉潔白で人気がありました。アメリカに資産を作っていたけれ

ど、文句は言わない。その他の人もキャピタルライトしているけれど、中国人は文句を言わない。自分の生活に関係してきたら文句を言う。中国共産党がない。自分の生活に関係してきたら文句を言う。中国共産党が倒れるときは①自分の生活に直結する腐敗と②大気汚染だと思えます。習近平氏が地位に就いてすぐにやったことは、腐敗撲滅でした。政敵の腐敗摘発をしました。この二つの政策で習近平の人気が上がりました。

最近はこの政策として「共同富裕」をいうようになりました。これで人気を博しています。貧富の差が拡大しすぎたから、行き過ぎ是正をはかったのです。アリババも巨額の寄付をしています。中国国民の情報をアリババはとったので、それはまずかった。情報は中国政府が持つべきだったのです。

教育改革

中国では教育に金がかかりすぎで、国民は家庭教師にお金をかけていました。塾禁止令もそれが原因です。育児・教育コストがかかりすぎるので、不満が教育から出てこないようにしているのです。

中国についての結論

中国は中国共産党にとっていい方向に進むのです。彼らの考え方は予見できます。中国は信義の篤い国です。中国はそういう人の集まりです。そしてよく勉強しています。いまや留学している人たちも中国へ帰ります。帰国して起業したら儲かるからです。中国のトップは地方出身です。そこで実績を積んで中央政府へ進出します。中国の政治家は地方で苦労してからトップに就いているから、チャラチャラしていません。

3. 英国はこの混迷から抜け出せるか？

チャーチルの苦しみ

ヤルタ会談ではチャーチルがイギリス代表でした。大英帝国は外交がうまい国です。駐在員にとって、どの国が良かったですかと聞くと、トップはイギリスです。人気がありました。ドイ

ツ、フランスは意外と人気がなく、イタリアは結構人気がありました。しかし、イギリスは衰退しています。第一次世界大戦の時から苦しくなっていました。そのイギリス人に「何と言われたら嫌ですか」と聞いたら、「アンフェアだといわれたら侮辱されたと思う」とのことでした。それと正義、ジャスティスを重んじます。フェアとジャスティスがイギリスの底流にあります。ところがこれが国を危うくしました。フランスを助けに行って第一次大戦に参戦したわけです。その時すでにイギリスは疲弊していました。戦争ではイギリス人は貴族が先頭に立って、人的被害も大きかったのです。第二次世界大戦の時より戦死者は多かったのです。

チャーチルはヤルタ会談では、苦労しました。第二次大戦後スターリンと談合して、共産党の強かったギリシャは、それが西洋のふるさとなので、渡さなかったけれど、その代わりハンガリーを渡しました。当時チャーチルは、英国の滅亡の始まりかな、と思ったそうです。そして。イギリスはアメリカへの借金返済にあたりました。結局、戦後すぐの選挙でチャーチルは負けるのです。イギリスには帝国戦争博物館というのがあります。一度行くことをお勧めします。戦争を真正面から捉えています。戦争の実態を全部残しています。日本は戦争に負けても戦争に関して何も残していません。これでいいのでしょうか。戦後二大政党制の下、イギリスはどんどん没落していきます。私がイギリスに行ったときはそんなときでした。ストライキが続発していました。

サッチャーの改革

サッチャーは最初人気はなかったのですが、フォークランド戦争で人気上昇しました。南太平洋のアルゼンチンの鼻先にあった英領フォークランド諸島ですが 1982 年内政に行き詰まったアルゼンチンの軍事政権がフォークランド諸島を占拠しました。いったん占拠された島を取り戻すのは大変です。しかし、サッチャーはこれを追い払いました。終結できるかどうかを確認し、そして米国、EU の支持を取り付け、国際法に則っているかどうか確認の上、国際世論で

勝ちました。それで一気に人気を取り戻し、どんどんと改革を進めました。失敗は金融に力を入れすぎて、偏りが生じ、ロンドンシティばかり豊かになって、産業が没落したことでした。



Brexit 海図なき船出

普通の考えから言ったら大失策ですが、キャメロンの頭にはフェア、ジャスティスがありました。みんなの意見を聞いて決めようと思いました。まさか国民投票で負けるとは思っていなかったでしょう。英国人の心底にある英国人としてのプライドがあったのではないのでしょうか。英国人のプライドが離脱せしめたのです。正解なき離脱でした。イギリスは今から大変な時代になります。北アイルランド問題は正解がないでしょう。EU の中にいるから、アイルランドと北アイルランドの間には境界がなかったのですが、ブレグジットで境界が引かれることになりました。でも no hard border 厳しい国境管理に反対が叫ばれています。イギリスは北アイルランド紛争を復活させたくないのです。

(注) 「北アイルランド紛争の終結時の和平合意によって、北アイルランドの将来的な帰属は住民の意思に委ねられた。そして、北アイルランドと地続きのアイルランド共和国の間での住民の自由往来を保障し、国境検問が廃された。北アイルランドの住民は英国、アイルランドのいずれのパスポートも取得できるようになった。／このため、ブレグジットを実現するにあ

たっては、英国側も EU 側も、北アイルランドと EU 加盟国であるアイルランドの国境について、厳格な国境管理を復活させないことを最優先に考えた。今さら国境を「復活」させたら、北アイルランド和平を危うくしかねないからだ。／だが、英国が EU を離脱する以上、どこかで英 EU の国境管理をしないとイケない。」

それでも英国が好き

英国は国に対する信頼がきちっとしています。自分たちが選んだ政府だからです。これがイギリスのポジティブな面です。ネガティブな面は国のバランスシートをクールに理解する必要があります。日本の国のバランスシートもよくありません。日本も英国から学ぶ必要があります。



【立命館大学経営学部校友会】

〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町 2-150

TEL:072-665-2090 FAX:072-665-2099

E-mail: info@ritsba-kouyukai.jp